



絵：祝迫正豊（美術）

加治木だより

男はいかにあるべきか

校長 黒木 浩二



手許に一冊の本があります。文春文庫『戦国風流武士・前田慶次郎』。海音寺潮五郎先生の手になる時代小説です。この本、巻末に磯貝勝太郎氏の解説が掲載され、その中で本校のことにふれています。

「海音寺潮五郎は鹿児島の子ながら偉大な作家だ。海音寺は大正二年、生まれ故郷の大口尋常高等小学校を卒業後、加治木中学校（現在の鹿児島県立加治木高校）に入学した。加治木は島津義弘の城下町だけに、薩摩隼人の気風が著しい土地柄であった。海音寺が入学したころの加治木中学校には、まだ武士の気節を重んずる気風が

山中先生の挫折

PTA会長 濱崎 泰弘



皆さんは有名な医学者は？と聞かれたら誰を連想しますか？古くは杉田玄白や緒方洪庵、まあ、殆どの方は野口英世か北里柴三郎でしょうが、他には森鷗外や手塚治虫といった特殊な才能を発揮した先生を思い出す方もおられるかも。去年はこれらの「大」医学者の系列に新しい人物が加わりました。言わずもがなですが、iPS細胞を発見してノーベル医学生理学賞を受賞された山中伸弥先生です。山中先生の若い人に向けた教えが非常に示唆に富んだものなのでご紹介したいと思います。

栄光に包まれ、尊敬を集める現在の山中先生ですが、その半生は挫折ばかりだったようです。最初は臨床医を目指されましたが、手術が下手で「邪魔な

第 30 号
2013.3.1
加治木高等学校
PTA 発行

〒899-5214
鹿児島県姶良市加治木町
飯屋町211番地

校長・PTA会長あいさつ P 1
生徒指導・保健・進路指導の各部より P 2
学校行事の感想 P 3
一日遠行・卒業に寄せて P 4・5
卒業生へはげましの言葉 P 6
部活動大会入賞記録 P 6

残っている、入学当初はこわかったという。士族の子弟が多く学ぶ加治木中学校には、桐野利秋、逸見十郎太タイプの快男子が大勢いたので、海音寺は彼らの爽快さに胸を洗われることがしばしばあり、次第にその厳格な校風になじんでいった。

「海音寺の生涯の性格の芯は加治木中学校で形成され、後年の海音寺文学に大きな影響を与えた結果となった。筆者は二度、加治木高校を訪れた。現在では、桐野や逸見タイプの生徒はいないようだと感じて、いささか残念におもったが、校門を入った左手の一角に建っている海音寺潮五郎の文学碑を見て、海音寺の人となりに対しての感懐を改めて抱いたことを思い出す。その石碑には、

「私の人間美学はここで形成された。（以下略）」と、記されている。この文学碑の文章を読むたびに、快男子とし

カ」と呼ばれ整形外科医を諦めたこと、その後、研究医に転じ、米留学で手こたえをつかんで帰国したら実験用マウスの世話ばかりの仕事させられ「山チュウ」と呼ばれうつ病になりかけたこと、など有名ですね。そして研究医としても挫折しかけた時、幸運にも奈良の研究施設に採用され、その時決心されたそうです。「僕は2回挫折した。今度の研究医からも逃げ出そうとしたが幸運にも拾われた。それなら他の人がやりたいと思うことも挑戦できないことをやろう」と、山中先生はくじけず、諦めず、楽天的でした。当時夢の細胞と思われていたiPS細胞に目標を定め、ゆっくりと着実に地道な努力を続けられ、ついに運命の女神は微笑んだわけですね。

山中先生は若い人は挫折するべきだと仰っています。「いっばい失敗してはいらい。9回失敗しないとなかなか1回の成功が手にほらない」と。名言です。山中先生の若者へのメッセージは以下の3点に要約されます。

①挫折を恐れたいけません

ての性格の一面をもつ海音寺と彼の文学の要諦を端的に表していることを痛感させられる。海音寺の文学の特色は、「男はいかにあるべきか」という男性美学の文学化である。したがって、よろずに男らしくふるまうという美意識に支えられた武士の生きざまを描いた作品が多い。男らしくふるまうという美意識は、男の意地を貫き、おのれを深くすること、つまり颯爽たる男性的気概を最上とする態度のことである。今のことばでいえば、「カッコよい」ということと相通する美意識であった。

「人間美学」の核心を実に的確に説明しています。「なるほど」と素直に納得しました。しかし一方で苦い味も残りました。

加治木高校は薩摩伝統の美学醸成の土壌を失ったのでしょうか。それとも男性美学の表現様式が変わったに過ぎないのでしょうか。後者であればよいのですが.....

②VW (Vision and Hardwork)、高い目標を掲げて一生懸命やってみよう

③人生万事塞翁が馬、一喜一憂せずには我慢強くやってみよう

山中先生のこのメッセージには一部から非難の声もあつたそうです。「普通の人は1回挫折したら心が折れるから挫折を経験させるべきではない」といっても私の考えは異なります。山中先生が折れなかったのは「心」が強かったからではなく、研究への「想」が強かったからです。「強い心」を備えるのは多分に先天的で難しい気がしますが、「強い想」は後天的なものであり、普通の心の持ち主でも可能だと思います。

PTAの皆さん、これから子供たちは人生の様々な困難に直面し挫折を味わっていきます。しかし、「9回失敗したら1回成功する」と信じて子供達を見守っていきましょう。挫折するかもしれない、と余計な心配をして子供たちの行動に抑制をかけ、やる気の芽をそくことだけは避けたいものです。

「道場」

生徒指導部 富田耕作

幼い頃、母に手を引かれて小学校の体育館に剣道の稽古を見に行った日から、私の剣道人生は始まった。稽古が行われていたのは小学校の体育館、それと中庭であった。特に中庭で稽古があるときは、仲間達と竹箒を片手に掃き掃除をして、それから稽古が始まるものだった。今でもよく思い出す光景である。掃き掃除をして準備をする以前の中庭は、私達にとつた遊び場であつたはずなのに、正座をし、挨拶をする頃にはそこは立派な「道場」へと変化する。周りの空気がびんと張り詰め、身が引き締まるような気持ちになるものだった。体育館で稽古が行われるときも同様であり同じく「道場」になるのだが、玄関から入るとき一礼をするという行為が加わるだけで、また少し違つた緊張感があつた。

「道場」といえば一般的に、武芸の修練を行う場所。また広く心身の鍛練などを行う場所という意味で使われる。私にとつて、先生方がいて、知らないこと、楽しいこと、辛いこと、苦しいこと、我慢すること等々様々なことを学ぶ場である学校は、いつしか「道場」そのものになつていった。高校に入学した頃、その頃はまだ学生帽子が残つていたので、坊主頭の私は登下校時にいつも学生帽子をかぶつていた。ひそかに私はその帽子をかぶり登下校することを誇りに思つてもいた。そして当然の事として、学校の門をくぐる時は門のところで立ち止まり、学生帽をとつて学校に向かつて一礼し、門をくぐる。これが当たり前の習慣になつていた。最近では、学生帽もつくの昔になくなり、それと同じくして校門付近で一礼して学校に入ってくる生徒は少なくなつた。今日も一日よろしくお願ひします。心の中でつぶやき、様々な事への感謝の念

を抱きながら、今日一日に対して闘志を燃やす。そんな一瞬があつてもよいのではないかと思う。

期待すること

保健部 花立理恵

平成二十一年、「新型インフルエンザ」と呼ばれた感染症が、特に若い世代に爆発的に流行しました。本校でも四〇〇名近くの生徒達が感染し、受験を控えた三年生を心配し、希望者に集団でワクチン接種をしたのを覚えています。あれから三年が経ちました。その後の本校でのインフルエンザ発生状況と言えば、地域が流行期に入つたと聞かえ始めても加治木高校だけは何かに守られているかのようによこ二二年間流行していません。今年度もインフルエンザの流行期に入つたとの情報が聞かれてから、一月いっばいで感染者が十名にも届いていない状況です。また、普段の保健室利用状況を見ても、平成二十一年度と比べると年間八〇〇名程の減少が見られます。

私は、ここ三年で明らかに生徒達の健康度が向上しつとつと感しています。もつと言えば「自己管理能力」の向上、いわゆる自分の健康度に合わせて予防や行動が取れる生徒達が増えつとつと実感しています。身近な一つの例が、マスクの着用です。呼びかけ以前の自主的な着用がかなり見られます。こういった「予防」への一人一人の意識が、流行期の感染症はもとより普段の健康な状態を維持できている要因になつていいると思えるのです。

「自己管理能力」は、身体の健康面だけでなく、時間・精神力（ストレス）など日常生活の様々なところで問われる能力です。これから、自立し社会で貢献していく生徒達にとつても大切な能力といえますが、すぐに定着するものではありません。日々の生活の中で意識していくことによつて少しずつ高め

られていくものだと思います。保健の立場から、この能力を高めていくためのさまざまな保健行事を「健康福祉学」として、年間を通じ実施してきました。保健講話や歯科に関する指導や講話・ストレスマネジメント教育・テーマ別分科会などです。これらは、ただ聞くだけの受身的な講義形式だけでなく生徒自身がさまざまなワークや実習を受けながら自身を見つめ、主体的に考え、その後の行動に活かしていくことが出来るような内容が多く含まれています。こういった機会を活用し、感染症を始め、将来、予期せぬ出来事が訪れた時にも、「自身をしつかり見つめ・考え・行動に移す」ことが出来る生徒が、もつと育つて欲しいと期待しています。

「夢」をつくっているもの

進路指導部 川崎辰也

「本日ももちまして、二十一年間に及びましたプロ野球人生に区切りを付けたいと思ひます。命がけのプレーも終わりを迎えました。」

昨年末、こんな言葉で日米のプロ野球界で活躍した松井秀喜選手が引退を表明しました。華々しい活躍をリアルタイムで見てきた同世代の人間として、一つの時代が終わつたような感慨を覚えました。ところで、その引退会見で非常に印象に残つた場面があります。「この二十一年間で一番思い浮かぶシーンは？」という記者の問いに、「うーん…いっばいありますね。やはり長嶋監督と二人で素振りした時間ですかね。」と松井選手が声を詰まらせながら語つた場面です。「命がけ」のプロ野球人生を象徴するシーンが、巨人軍時代に獲得した多くのタイトルでもなく、ワールドシリーズを制覇し日本人初のMVPに輝いた華々しい瞬間でもなく、誰も見ていない日々の練習の一場面であつたことは意外でしたが、天才である以上に努力の人であると言われていた彼らしい答えのような気がします。

松井選手は野球で夢を実現した一人ですが、みなさんの夢は何ですか？「医療関係の仕事に就いて社会に貢献したい」「公務員になりたい」、もつと身近なところで「〇〇大学に合格したい」…確かに私たちは様々な夢を抱いています。しかしその「夢」の正体とは何でしょうか。皆さんはもう気付いていると思いますが「夢」は空から降つてきたりしません。ぼた餅のように柵から落ちてきたりもしません。そうです、自分の努力で作りに上げていくものです。松井選手が夢を実現してきた日々を振り返つた時、思い出した場面が日々の練習であつたように、輝かしい「夢」の正体は泥臭い努力なのではないでしょうか。それならば、「夢」は努力すればその分だけ輝きを増していくはずですが、今は遙か遠くにある「夢」かもしれせん。もしかしたらもうすぐ手の届く場所にある「夢」かもしれせん。どんな夢でも、その夢を作り上げ輝かせるのは、そしてその夢の価値を決めるのは、今、この瞬間の自分なのです。

今年度も、夢実現への大きな試練、大学入試センター試験が一月十九日、二十日に実施されました。志願者は昨年より一万七千八百人程多い約五十七万三千人、本校三年生は鹿児島大学理工系受験場で、三百十余名の生徒が受験しました。それぞれが、夢の一片を積み重ね、歩みを進めたことでしょうか。

センター試験に限らず、今この一日一日、一瞬一瞬はすべてが夢を作り上げていく瞬間です。どんな時も、今、自分でできることは何かを自問し大切に時間を積み重ねて欲しいと願つています。そしていつか、夢が実現したとき思い浮かぶシーンはきつと、「うーん…いっばいありますね。やはり加治木高校で夢に向かつて頑張つてきた時間ですかね。」

平成二十四年度一日遠行

体育科 富田耕作

一日遠行は加治木高等学校創立百周年の記念行事として始まり、創立百十五周年を迎えた今年度は、(一)百十五周年の伝統を受け継ぎ、強靱な体力と不屈の精神を養う。(二)本校の教育目標にある「清新深刺」「質朴剛毅」「堅忍不拔」の具現を図る。「三」友情をさらに深め、高校時代のよき思い出を作る。という目的のもと十六回の実施となった。

今年度は、学校からスタートし、竹山ダムを周回して学校にもどるまでの約二十七kmのコースへと昨年度より少し距離が長いコースへと変更をした。色彩豊かな紅葉、鳥のさえずり、澄んだ空気を楽しむことができ、二度の大河ドラマの撮影が行われた龍門司坂・加治木島津家城跡である本校をコースの一部に含む味わい深いすばらしい



コースである。

十一月十六日、秋晴れのすばらしい天候の中、男子二百五十二名女子二百九十六名がゴール目指して本校グラウンドをスタートした。雨等の心配も全く無く、温暖な気候の中で遠行を終えることができた。

生徒達はみな活き活きとした表情で参加していたようであった。

何よりもすばらしかったのは、大きなけがもなく無事に遠行を終えることができたことであった。そして、生徒たちの強靱な体力と強い精神力には本当に驚かされ、また感動を与えてもらった。

また生徒たちにとっても、お互い励ましあいながら友情を深めたこと、沿道からの応援や給水所での温かいもてなし等良き思い出となり、困難を乗り越えた経験は、これからの学校生活へ向けて大きな自信となるに違いない。

P.T.A.役員の方々、地域の方々の協力があったからこそその一日遠行の成功であったと感謝している。

修学旅行の贈り物

二年主任 廣瀬裕二

「全員を無事に連れて帰って来れるだろうか。」そんなことを考えながら、機上の人となる。3年前に修学旅行引率をした時は、新型インフルエンザが流行して不参加や空港から引き返した生徒もいただけに、参加予定の267名全員が出発した時には、安堵する思いであった。

飛行機が離陸した瞬間に歓声を上げ、首都圏の高層ビル群に驚いていた生徒達は、5時間近くのバスの長旅を終えてホテルへ到着した。3年振りに訪れた長野県志賀高原は、美しい白樺林、一面の深雪、インストラクターや従業員の方々の心温まるもてなしで、私たちを迎えてくれた。「修学」と言う以上、物見遊山の旅行ではなく、生徒達は色々な事を学んだ。それは団体行動の難しさ、時間厳守の大切さ、空港やホテルでのマナー、スキー体験、鹿児島では決して見ることのない銀世界、修学旅行を通じて育んだ友情、周囲の方々への感謝であったかも知れない。1日半スキーを体験した後は、再び5時間かけてバスで移動し、長野市の善光寺を参拝して都内へ戻り、最終日は3コースに分かれて東京研修という



強行軍であった。スキー場やホテルでの食事バスの車中や東京など至る所で、私がかメラに収めた505枚の写真1枚1枚に日頃教室

では見ることの出来ない様々な生徒達の表情が輝いていた。

修学旅行に同行して下さい

加治木高校生の素直さ、服装・態度に感心しておられた。高校によつては、バスガイドさんの説明を完全に無視し、O.Lよりも派手な化粧や服装など、本当に高校生なのかと思えるような学校をいくつも見てきたと話して下さいました。事実、空港や高速道路のSA、スキー場や東京の観光地で、多くの修学旅行生の姿を見かけたが、加治木高校生は間違いなくどの高校生よりも「品格」があったように私には思えた。年が明け、3学期を迎えた黄色組を見てみると、修学旅行が遠い昔のことのように思えるから不思議である。



修学旅行は非日常の出来事であり、私たちの日常は平凡なことの繰り返しでしかない。だからこそ修学旅行の思い出が、志賀高原の夜空に輝いていた星のように、生徒達の心に光を放ち続けるのであろう。

3泊4日の旅行日程を終え、ふと改めて地図を見た時、私はまた長野県のほんの一部しか見ていない事に気付いた。生徒達の素顔や良さを再認識すると共に、「物事や人の一面や一部だけ」を見て全てを語れない事を、私に教えてくれた旅でもあった。



一日遠行は創立百周年(1997年 平成9年)を記念して始めました



第16回

一日遠行

2012年 平成24年 加治木高等学校

2012年11月16日(金)実施 距離:男女共に約27km
参加者:1・2年生 548名(男子252名・女子296名)
コース:【学校→龍門司坂→旧JA辺川支所→竹山ダム】
スタート:女子9時・男子9時20分
給水所協力:3ヶ所 PTA保護者・役員47名

「一日遠行」を振り返って
厚生部長 一年P 大塚 英晃

平成24年11月16日(金)恒例の「一日遠行」が催されました。週間天気予報ではあやしい気配が漂っていましたが、いざ当日になるとその予報は見事に外れてしまい、非常におだやかな天気となりました。また、終盤には桜島の洗礼もしつかりと受け、鹿児島ならではの思い出に残る遠行となったのではないかと思います。さて、実施にあたりましては、多くの保護者の皆様や先生方、特にお母様方を中心に事前打ち合わせから、当日は朝早くから各給水所での生徒受け入れの準備、また最後の撤収作業までお手伝いいただきました。生徒たちも安心して参加し、色々なことを学ぶことができたのではないかと思います。いつものことですが、お母様方のパワーには、まことに感心させられます。「一日遠行」は、生徒たちが「校是」について身をもって体験できる素晴らしい行事だと思います。これからも是非継続して開催してほしいと思います。

最後に、ご協力いただいた皆様へ心より感謝いたします。本当にありがとうございます。

竹山ダム給水所

学校から約15km(ダム一周含む)

第一チェックポイント

絶好の一日遠行日和になりました。仲間同士で和気藹々と歩く男子生徒

竹山ダムを一周

学校医兼PTA会長の濱崎泰弘先生と監察中の橋野勝利、富田耕作(説明中)廣瀬裕二先生

AEDも準備！
橋野勝利先生

おばあちゃんから美味しい手作り梅干の差し入れ！

紅葉の下で親睦も深めた3年部保護者！2名協力

チエック係はハンドボール部の皆さん

毎年参加の事務の村山裕美・森口洋先生

旧JA辺川支所給水所

学校から約8km。往路初の給水所です

2年保護者も参加！

軽トラにバケツを載せて給水作業中

ALTのマウイ先生も留学生と参加！往路辺川到着です

事務長の堂免健一先生も初参加！

辺川給水所協力の古野正博・出川隆政・江口伸一・市原賢優先生

辺川は往路復路ともに給水所です。

多数の生徒がトイレを利用

2年部保護者21名協力

鎮守小学校跡地の水道やお手洗いを借用。鎮守小は明治の初め開校し1971年(昭和46年)永原小学校に統合されました

龍門司坂給水所

上り口は階段になりました

第2チェックポイント(復路)

チエック係は弓道部のみなさん

最後の給水所です 学校ゴールまで頑張って

テント設営や給水準備中の役員

1年部保護者ら11名協力

龍門司坂(たつもんじさか)は江戸と薩摩を結び重要な街道でした。西郷隆盛は西南戦争の進軍、伊能忠敬一行も測量のためこの坂を往来しました。坂道の全長は約1500m、現在は486.8mが残っています。

国の文化財指定 往路は苜蓿す杉木立の美しい歴史あるこの石畳の坂を上ります。給水所とチエックは復路で！帰りは坂の横の林道を下ります。

スタートは 女子9時、男子9時20分

加治木高等学校

学校出発 クラウド脇の細い椋並木のランニングロードを通過して龍門司坂へ！

15時36分到着 (16時必達)

最終ランナーもゴール！前濱賢紀先生(手前)長佳文・城之下純一両教頭先生らもお出迎え

竹山ダム給水所で撮影

辺川給水所で撮影

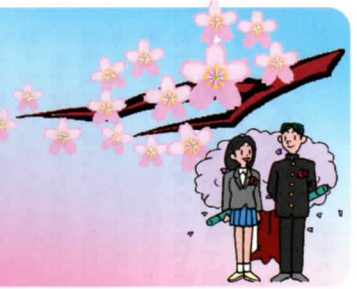
男子1位:堀田晴人さん(2年) 1時間46分
女子1位:工藤みなみさん(2年) 2時間01分

卒業

“ありがとう 加治木高校”

3月1日、第65回卒業生が、羽ばたきます。
加治木高校での思い出や卒業によせる気持ちを
4名の保護者の方にお書きいただきました。

題字：米丸貴之先生(芸術科 書道)



感謝

三年P 大迫 秀樹

息子の入学から娘の卒業まで長いようで短い五年間だったと思います。二人とも一日も学校を休むことなく皆勤をすることができたのは、母親の健康面・精神面の支えがあったからこそと、感謝しております。

息子はサッカー部を通じて心身とも成長しました。又、娘は休日にも登校し、勉学に励んでいました。これも、学校の環境が整い、先生方の温かいご指導の賜物だと感謝しております。

五年間のPTA活動でたくさんの方々と出会い親交を深めることができました。ご協力・ご支援を頂き、ありがとうございます。最後になりますが、加治木高校の今後のますますの躍進を心からお祈りいたします。



大迫副会長と濱崎PTA会長



体育祭給水協力

5年間、PTA監事・副会長として龍門祭、一日遠行をはじめいろいろな行事にご協力くださいました。
↓一日遠行給水所出発式(中央)



光り輝け

三年P 高岡 美佐

昨年卒業した娘、そして、息子共に仲間や先生方に恵まれ充実した高校生活をおくることができました。ことを感謝しております。

学業や部活では、光る結果は残せませんでした。朝、夕、自転車をこぐ君は光っていました。送迎を拒み、前へ前へと毎日毎日。

加治木高校は遠距離通学や親元を離れて暮らす学生も少なくありません。通勤途中の車窓からみる彼らは、重い鞆と熱い想いを抱え、深い愛情を背負いながら輝いていました。

進路で努力が実らないこともありますが、やがて就くだろう仕事や家庭で高校時代にきぼつて身につけた力は、発揮できる時が必ずきます。今は光らない君も「いつか輝く時がくる」そう信じ、願って巣立ちを明るく送りだすことにします。



部活動紹介 テニス部



学年部長として多大なご尽力をいただきました。
H22文化祭「お休み処」中央が高岡さん



『まむし太鼓』のメンバーとしても活躍(右端が高岡君)

質朴剛毅

三年P 大山 正嗣

加治木高校合格に親子で大喜びし、胸はずませこの歴史ある加治木高校の門をくぐったことが、ついでこの間のようにです。

入学式前からハンドボール部の練習に参加し新しい先輩や仲間とインターハイ出場を目指して練習していました。顧問の先生の熱い思い入れで、県外強豪チームとの遠征にも、たくさん行くことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

インターハイ出場は残念ながら、かむことはできませんでしたが、国体には選抜され、九州大会の沖縄に家族で応援に行けた事が、いい思い出です。これも日々の練習を一緒に頑張った、ハンド部の仲間と、熱心に指導してくださった先生のおかげだと思っています。卒業記念品に、学校の校是でもある「質朴剛毅」の文字の入った、横断幕を送りました。

最後に、この「質朴剛毅」の語源のように「素直で謙虚な心を忘れず、意志が強い人」に成長してくれることを願っております。



1年時PTA学年部長としていろいろな行事にもご協力くださいました。
←H22一日遠行右端が大山さん



男子ハンドボール部「質朴剛毅」の横断幕の前で

それぞれの三年間

三年P 西園 祐子

「加治木高校で野球をする。」学業成績いまひとつの息子の、賭けともいえるこの決意を応援したものでしょうか。目標に向かって努力して欲しいと思う反面、挫折を味わうことになるかもしれないという不安に祈るような気持ちだった三年前。幸運にも入学を許可され、自転車通学パンク修理達人としての三年間を過ごすことになりました。

高校生活では善き友達との出会いがあり、葛藤があり、戦いがあり、喜びがあったことでしょう。家庭では、父親とはもつぱら野球の会話で繋がっていたようですが、口うるさいアドバイスをどのよう受け止めていたのでしょうか。子どもと親、それぞれに思いの詰まった三年間。お互いそれなりに頑張ったぞ。

これまで懐深く、静かに、熱く見守ってくださったすべての皆様。心から感謝します。有難うございました。

体育祭では応援団としても活躍



部活動紹介 野球部



贈る言葉

教頭 長 佳文

卒業生の皆さんが在籍していた中学校の高等学校説明会で、加治木高校の素晴らしい事を案内し、ぜひ加治木高校に進学してくださいとお願ひして回ったのがつい昨日のことのように思い出されます。あれから三年余り。合格者集合にはじまり、入学式から卒業式までつぶさに見守ることになりました。

驚いたことは、入学後すぐに、さすがらしい挨拶をし、一所懸命に掃除に取り組み、元気に校歌を歌う加治木高校生になったことでした。また、三年生になると、放課後学習や休日の教室自習に意欲的に取り組む姿勢が印象的でした。何事にも素直に真摯に取り組む学年だったと思います。そのうしろ姿を見ている後輩たちが伝統として引き継いでくれることでしょう。

好きな言葉があります。

If you can dream it, you can do it. —Walt Disney—

夢を持たなければ、夢は実現できない。夢は実現するためにあるのです。はじめからできないと思ってしまうと何も変わらないけれど、できたらいいな、なれたらいいなと日頃から思っていると取組や心の持ち方、生きざまも必ずや変わってくるものです。

まずは目標でも希望でも良い。あとは実現に向けてひたすら自分なりの努力をすること。九十九%無理でも一%希望があれば諦めてはいけません。諦めた時点で夢は夢のままで終わってしまいます。夢を追いかけて努力を続けることです。努力は裏切りません。

If you can dream it, you can do it. 卒業おめでとう。

生きること

森 るみ子

「母」

今僕がここにいるのは あなたの忍耐以外の 何もでもない 生死の間を さまよう僕を 自分の命を懸けて 連れもどした 生きてゆくのに 涙を流すひまはない それが あなたの口ぐせ

悲しみも 苦しみも すべて その小さな背中に背負い歩く それを だれがはかり知れるというのか 月日は またたく間に過ぎ去り 僕を支えることも できなくなった 両手のしわも ふえてゆく

生まれた時から 戦いの中 あなたに ささやかならぬきみが あったのでしょうか 子供のために すべてを投げだした あなたにも 人生と呼べるものが あったのでしょうか

神様 もし できることなら 母にもう一度 人生を与えてください 母にもう一度 人生を与えてください 母にもう一度 人生を与えてください

これは県立鹿児島養護学校高等部の生徒ひろゆき君が、卒業に際して母に贈った詩です。重度の障がいを持って生まれた彼は、鉛筆も持てないので、常に寄り添い支えてくれた母への感謝の思いを詩に綴りました。母と子のこれまでの道程を思うと、心が痛みます。が、何より心打たれるのは「母にもう一度人生を」と祈る彼の優しさです。母の気持ちを痛いほど感じて生きてきた彼の、尽きぬ思いが溢れています。

三十年前にこの詩と出会って以来、

私は生きるうえで何が大切か、とよく思うようになりました。愛と想像力をもつて生きること。「心の眼」を曇らせないこと・・・。

出合いが人を育てる

美術科 祝 迫 正 豊

「私は、これまでに、一体どれだけの人と出会ってきたのだろうか。」と、この頃考えることが多くなった。君たちはどうだろう。長い時間を一緒に過ごした人はもちろん、ほんの一瞬の出合いも含めると、わずか十八年の間でも、かなりの数になるのではないだろうか。

ここで、私の友人の話を紹介したい。一人は、大学の商学部に進学したが、商社の道を選ばず、大学時代のバイトがきっかけで、映画制作の道に進んだ哲ちゃん。

もう一人は、建築学科を選んだが、音楽の道に転向した新ちゃん。彼らは今も、その道を貫き通しているが、当時、私にとつて二人の選択は意外です。こい勇気のあることに思えた。私の選んだ美術の道は、周囲からは先の見えない分野のようであったがその心配をよそに、その道筋はずつと変わらなかった。

変わるか、変わらないか、ということが重要ではない。いずれにせよ、自分が覚悟を決めることの方がより大切なことだと思ふ。

その覚悟に一つの示唆を与えてくれるのが、人との出合いではないだろうか。私が美術の世界に進もうと思うきっかけは、やはり、小学校時代、私の作品から、色感を大いに褒め、喜んでくれた先生との出合いにあるように思う。また、高校に進んでからの具体的な指導者との出合いも大きい。

出合いの中には、また会ってみたい人との出合いもあれば、自分とは違つた価値観をもつた人との出合いもある。しかし、どちらも自分が考え、成長する機会を与えてくれる出合いであったことに気づく。

君たちも、新しい出合いの中で、共感したりぶつかったりすることもあるかもしれないが、自分の道に夢をもち、覚悟して前向きに進んでほしい。

部活動大会参加及び入賞記録

体育部門

県大会

- ▽ハンドボール部 県新人大会 男子2位 女子2回戦
- 南九州大会 男子4位
- ▽剣道部 県新人大会 男子1回戦 女子1回戦
- ▽弓道部 選抜大会 男子団体7位 女子団体2位
- ▽山岳部 県新人大会 女子団体2位
- ▽バドミントン部 県新人大会 男子1回戦 女子2回戦
- ▽バレーボール部 県新人大会 男子2回戦 女子2回戦
- ▽サッカー部 県新人大会 1回戦
- ▽ラグビー部 県新人大会 1回戦
- ▽テニス部 県新人大会 男子団体 ベスト8
- ▽卓球部 県新人大会 男子団体 ベスト16
- 女子団体
- ▽陸上部 県新人大会 男子駅伝 11位
- 女子駅伝 13位
- ▽野球部 県新人大会 2回戦
- ▽柔道部 県新人大会 個人2回戦

文化部門

- ▽吹奏楽部 第1回伊佐・始良地区高校ソロアンサンブルコンテスト 最優秀賞 サックス四重奏
- 優秀賞 金管八重奏2名、クラリネット五重奏、打楽器六重奏
- 優秀賞 ソロ1名
- ▽美術部 第63回県高校美術展
- 第65回鹿児島県読売テレビ賞 KYT鹿児島読売テレビ賞 千籠佐保 (平成25年度全国総合文化祭 県代表に選ばれた)
- 優秀賞 迫田菜美
- 秀作賞 南園亜美・中塩菜月
- 奨励賞 春 京華・平 真子
- ▽書道部 第65回鹿児島県書道展 硬筆の部・毛筆の部 県書道会賞 乾 はるか
- 第65回全国書道展 優秀団体賞
- ▽放送部 第34回九州高校放送コンテスト 鹿児島大会 ラジオ番組部門 優秀賞「かこいま」